

TOMODACHI



TOMODACHI
イニシアチブ

★
20
19
●

活 動
報 告 書

次世代育成のために

親愛なる友人の皆さま、

TOMODACHI イニシアチブへのご支援に感謝申し上げます。
TOMODACHI イニシアチブは、日米間の人と人とのつながりの拡大を継続し、2019 年は、TOMODACHI アラムナイとの関係も新たな局面を迎えました。TOMODACHI はこの1年も引き続き、日米両国の地域社会に良い影響を与える、新しい、多様な意見を持つ人々の育成支援ができたことを誇りに思います。これはスポンサーやパートナーの皆さまの寛大なるご支援がなければ、実現し得ませんでした。

2011 年 3 月の東日本大震災の発生を受け、ジョン・ルース元駐日米大使館のリーダーシップの下、在日米大使館と米日カウンシルが、被災地の若者に希望を与えるために TOMODACHI イニシアチブを発足させました。初年度には数百名の東北の若者にアメリカを経験する機会を提供しました。以来 8,600 名以上の若者が 320 以上のプログラムに参加しています。今日、TOMODACHI は東北との強固なつながりを大切にしながら、その使命を発展させ、アメリカ人の若者が訪日する機会を提供しているほか、東北のみならず、日本中の若者を支援しています。

また TOMODACHI は、拡大し続けるアラムナイのネットワークを通じて、将来のリーダーたちを鼓舞し、つながりを広めていくために、アラムナイのリーダーシップスキルを促進させるための機会を設けています。本年は、4 名の TOMODACHI アラムナイが、ロサンゼルスで開催された米日カウンシル・アニュアル・カンファレンススピーカーとして登壇し、TOMODACHI での経験による自身の変化を共有しました。

2019 年は、新規および継続的なパートナーシップによって、TOMODACHI 世代の広がりとその影響力はさらに拡大し、教育、文化交流、リーダーシップ・プログラムを通じ、日米における若者のリーダーを育成するミッションの強化・促進を行ってまいりました。来たる東京オリンピック・パラリンピックへの期待が高まる中、「TOMODACHI-U.S. Embassy Go for Gold Leadership Program」を共同で設立し、日本の次世代リーダーにスポーツマネジメントの研修機会を提供し、日米の新たな交流の道を創造します。

若いリーダーらが夢を実現する機会を提供していただけるファウンダー、スポンサー、実施運営団体、アドバイザーや支援者の皆さまのビジョンと多大なるご支援に心より感謝申し上げます。米日カウンシルと在日米大使館は、日本国政府をはじめとした多くのパートナーの皆さまと一丸となって、日米の若者に生涯またとない機会を提供できますことを誇りに思っています。

未来の日米関係への皆さまのコミットメントに、心より感謝申し上げます。


駐日米国臨時代理大使
ジョセフ・M・ヤング


米日カウンシル会長
アイリーン・ヒラノ・イノウエ

「米国と日本はこれから数多くの課題に直面するでしょうが、これらが良い機会になっていくのです。我々の継続的な連携が、日米のそして世界中の人々の人生の質を向上していくことにつながると、心から信じています。」

ディビッド・F・ボナー、TOMODACHI-Mitsui & Co. Leadership Program



使命

TOMODACHI イニシアチブは、米日カウンシルと在日米大使館が主導する官民パートナーシップで、日本国政府の支援も受けています。東日本大震災後の復興支援として発足され、教育・文化交流・リーダーシップ育成などのプログラムを通して、日米の次世代リーダー育成を目指します。

背景

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の発生を受け、米軍と自衛隊は「トモダチ作戦」を通じて東北地方への緊急人道支援活動で協力し、成功を収めました。この時の協力と友情の精神を基盤に、米国と日本は TOMODACHI イニシアチブを開始しました。TOMODACHI は在日米大使館と米日カウンシルが主導し、日本国政府の支援の下、日米両国の企業、組織、個人から協力を受け、運営されています。

ビジョン

日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、さらには、より協力的で繁栄した安全な世界へ貢献するために、また、そうした世界で成功を収めるために必要とされているスキルと国際的な視点を備えた日米の次世代リーダーである「TOMODACHI 世代」の育成を目指しています。

将来

TOMODACHI イニシアチブは、革新的な官民パートナーシップの模範としての役割を今後も果たしていきます。そして「TOMODACHI 世代」を育成するアラムナイ（プログラム経験者）・プログラムなど、異文化交流を通じて日米の若手リーダーを育成する各種プログラムを企画・構築し、日米関係を支援する企業・団体とのパートナーシップを拡大していきます。

プログラム

教育プログラムは、短・中・長期の留学体験を通じ、互いの文化に触れることで、日米両国の若者の交流を活性化また拡大し、彼らの人生に刺激を与えます。

文化交流プログラムは、スポーツや音楽、芸術分野において、日米両国の若者が、相互の国の文化を学び、関心を継続していくためのきっかけを提供します。

リーダーシップ・プログラムは、次世代のリーダーとして、成功を収めるためのスキルや専門知識を得る機会を提供します。

アラムナイ・プログラムは、TOMODACHI の経験を基に実施されるプログラムです。日米の若者たちが経験、そしてスキルや自信を身に付けることで、インスピレーションと活力を得て、夢を実現し、より良い世界を構築するために貢献できる人材となるよう支援します。



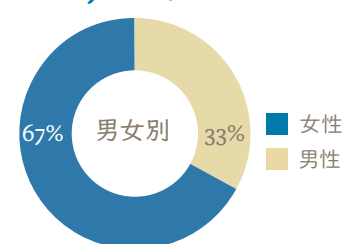
TOMODACHI は、生涯にわたる経験を通じて、多文化な若者向けリーダーシップ育成を支援しています。

TOMODACHI アラムナイ (プログラム経験者) ネットワーク			
異文化リーダー成長過程			
異文化体験	インスピレーション	学習	アラムナイ
異文化との初めての接触 次世代の若者に日米関係を紹介	人生の転機となる異文化体験 若者の異文化体験	知的好奇心を満たす学びの機会 社会貢献や地域社会での活動	次世代リーダーの育成 起業家精神育成プログラム 女性のためのメンターシッププログラム

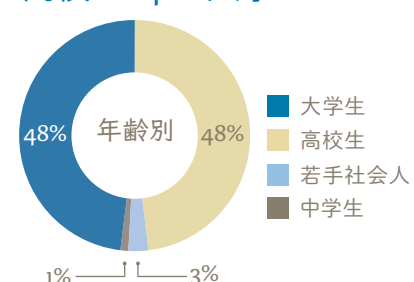
革新的な 官民 パートナーシップ



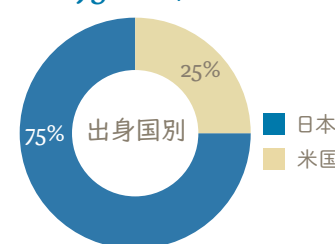
67%女性



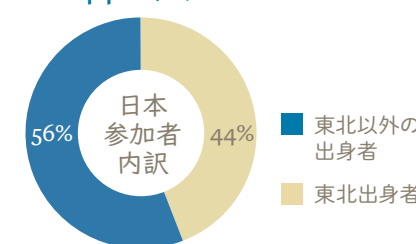
48%高校生・48%大学生



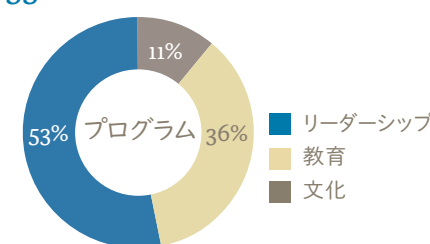
75%日本



44%東北



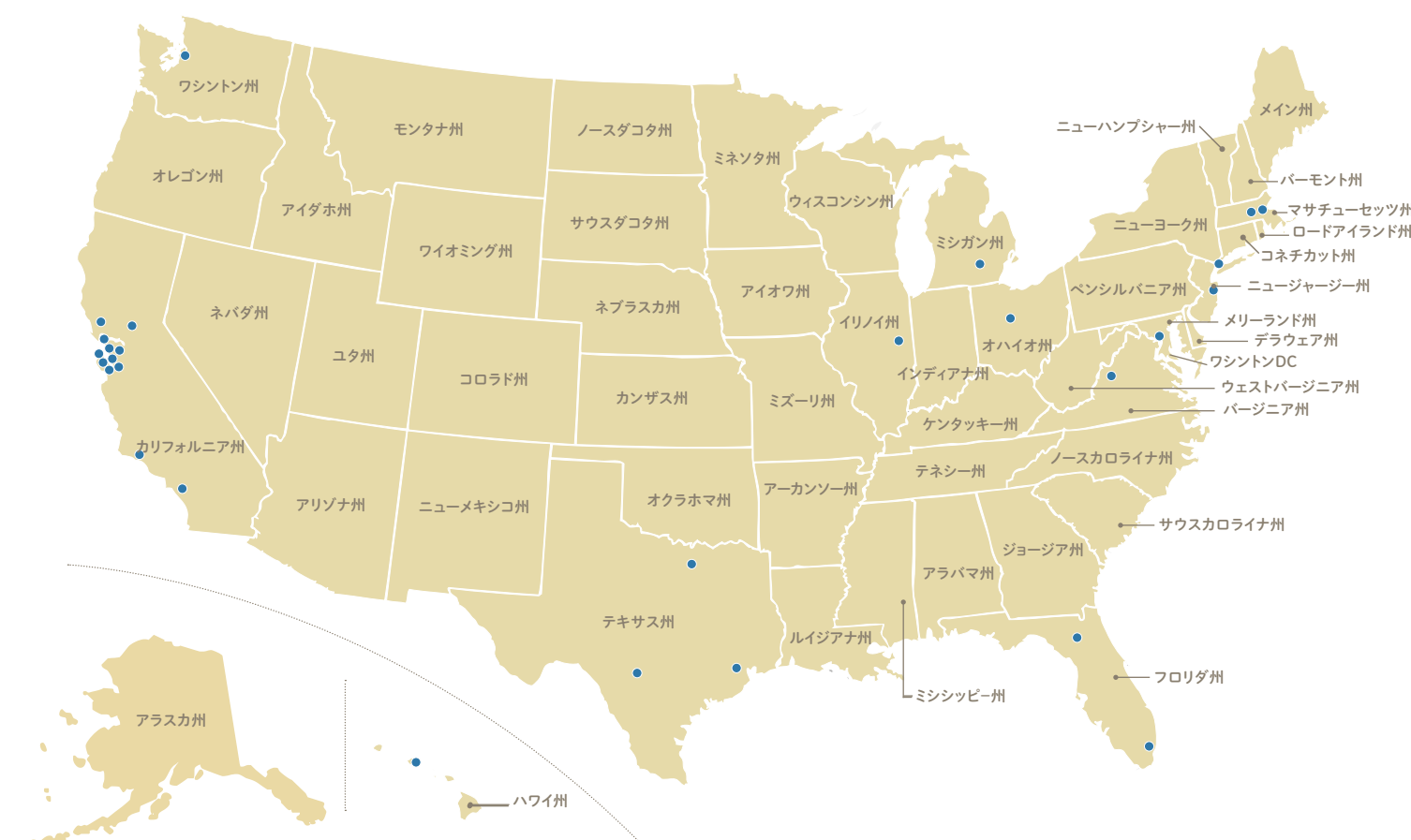
53%リーダーシップ



2019年TOMODACHIプログラム開催地(日本)



2019年TOMODACHIプログラム開催地(米国)



「多くの TOMODACHI 世代が日米両国で挑戦をしていることを考えると、たとえ気持ちが落ち込んでいる時でも、ベストを尽くすエネルギーをもらえます。私たちが築いてきた友情は特別なもので、一生続けていきたいと強く感じています。」

大城和輝、TOMODACHI 住友商事奨学金プログラム



インパクトを与え続ける パートナーシップ

TOMODACHIイニシアチブを支援するストラテジック・パートナーは、次世代を担う若者の人生を変えるような独自のプログラムを通して、参加者の道のに大きな影響を与え続けています。2019年には、中学生から若手社会人まで430名を超える参加者が、ストラテジック・パートナーの支援で実施された14件のプログラムに参加しました。

異文化交流、奨学金、フェローシップ、キャリア・ディベロップメントなど、多彩なストラテジック・パートナー・プログラムでは、グローバルな経験やリーダーシップを学び、参加者同士の持続的な関係構築やつながりの場を提供しています。プログラム終了後も、アラムナイ(プログラム経験者)は、「TOMODACHI世代」として、アラムナイ向けの様々なイベントやワークショップ、プログラムへの参加や交流により、互いに刺激を与えながら成長し続けています。

「プログラムが始まる前ははいよいよここからがスタートだ、と意気込んでいましたが、プログラムの全過程を終えてみると、今こそが本当の意味でのスタートだと感じています。」

長尾晏寿美、TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム



2019年 ストラテジック・パートナー・プログラム

教育プログラム

TOMODACHI・MUFG 国際交流プログラム

8年目を迎えた相互訪問プログラムに、南カリフォルニアの高校生20名が参加し、2週間日本各地を訪問しました。東京では株式会社三菱UFJ銀行の本社を訪問し、また同社社員のご家庭でホームステイを経験しました。広島県では、知事を表敬訪問したほか、平和記念資料館も視察しました。さらに、本プログラムで初となる福島県を訪問し、震災の経験や、復興の課題について、地元の方々からお話を伺い、東日本大震災がもたらした影響について学びました。参加者はプログラムを通して出会った人々と友情を育み、両国の絆を強固なものとししました。



TOMODACHI 住友商事奨学金プログラム

2014年から実施されている本奨学金プログラムは、財政援助を必要としている学部生を対象とし、1年間の米国留学を支援しています。本プログラムは、将来日米の架け橋として活躍する、グローバルな視野を持った若手リーダーを育成する目的で設立され、2019年度は日本全国から9名の学部生が選出されました。留学期間中、参加者は11月にロサンゼルス市で開催された米日カウンシル・アニュアル・カンファレンスに出席し、日米関係の様々な側面について、直接話を聞き、知識を得ることができました。



TOMODACHI-UNIQLO フェローシップ

2013年に開始された日本のビジネスおよびファッション業界を担う次世代リーダーを支援するプログラムで、ニューヨーク州立ファッション工科大学(FIT)とパーソンズ・スクール・オブ・デザインの2教育機関における留学の機会を提供します。2019年は、ファーストリテイリング財団の支援により、2名の才能ある学生が大学院へ進学するための奨学金を獲得しました。奨学金制度を通して、世界的なファッションデザイナーとのつながりにより、ビジネスやデザイン技術を磨き、両名共に自身の世界的かつ革新的な服飾ブランドを立ち上げることを目標としています。



人と地域に刺激をもたらす

リーダーシップ・プログラム



Building the TOMODACHI Generation: Morgan Stanley Ambassadors Program

2019年は日本人学生12名が米国人学生7名と共にワシントンD.C.で行われた2週間の集中型プログラムに参加しました。参加者は非営利・非政府組織（シビル・ソサエティ）という概念や彼らが社会に対して果たしている役割について学びました。日米の学生はチームごとに、東日本大震災の復興支援のため、東北地方が抱える課題にフォーカスし、アクションプランを策定しました。帰国後、モルガン・スタンレーにてアクションプランの発表を行いました。



TOMODACHI 日本アムウェイ財団 東北ミライリーダー・プログラム

2019年に新設された本プログラムは、次世代を担うリーダーが、東北地方のまちの魅力を再発見し、観光を通して地域の活性化を図ることを目的としています。2019年は、宮城県南三陸町から16名の高校生が、ワシントンD.C.、ニューヨーク市、そしてニュージャージー州を訪れ、観光や文化交流を学ぶ10日間の研修に参加しました。また、国立9月11日記念博物館やハリケーン・サンディで影響を受けた地域も訪問しました。参加者は帰国後に、自身の経験を踏まえた地域復興のための企画案を、地元関係者に発表しました。



TOMODACHI Honda グローバル・リーダーシップ・プログラム

2018年に刷新されたこのプログラムは、日本全国の高校生にグローバルなリーダーシップスキル構築や日米の文化交流の機会を提供します。20名の高校生が2週間にわたってオハイオ州ダブリン市およびカリフォルニア州ロサンゼルス市を訪れ、Honda関係者のご家庭でのホームステイ体験や地元の高校での文化交流を行いました。またオハイオ州にあるHondaの製造拠点を視察したほか、参加者自身が夢を実現するために挑戦する気持ちを育む研修に参加しました。



TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム

本プログラムは、看護学生の災害看護に関する知識を深めるために2015年に設立されました。2019年よりプログラムの参加者を全国から募集し、各地で看護師を目指す多様性のある8名のグループは、ワシントンD.C.、ニューヨーク州およびニュージャージー州を訪問しました。現地では、災害看護を専門とする組織を訪問し、リーダーたちから話を聞く機会を得ました。帰国後、参加者は米国研修でのそれぞれの経験を基に個人プロジェクトを実行し、最終報告会にてそれぞれの学びを発表しました。



TOMODACHI MetLife Women's Leadership Program

7年目を迎えた本プログラムは、東京、大阪、福岡、那覇の4都市にて開催され、50名の女子大学生がメンターとなる50名の実務経験豊かな女性リーダーとペアを組み、メンターシップやリーダーシップ研修の機会を得ました。参加者は5回を超えるセッションを通して、自らのリーダーシップの強みの理解、コミュニケーションスキルの改善、自身のブランドの構築、そして協働の重要性について学びました。初年度の2013年から数えて、638名の女性がこのプログラムに参加しました。

「懸命に取り組み、お互いを頼ることで、日本人の学生と真の関係性を築くことができました。この経験がプロジェクトを発展させていくことに大変意味のあることだったと自信を持って言えます。」

マニユエル・アリエタ、Building the TOMODACHI Generation: Morgan Stanley Ambassadors Program



TOMODACHI-Mitsui & Co. Leadership Program

7年目を迎えた本プログラムでは、日米の官民両分野から選出された各国10名の若手社会人が双方の国を訪れ、1週間の視察および交流の機会を得ました。米国代表団は、福島県と東京都を、日本代表団は、カリフォルニア州シリコンバレーとワシントンD.C.をそれぞれ訪問しました。両代表団は、プログラムの3本柱となるテーマ「イノベーション・起業家精神・リーダーシップ」を基に、日米関係の繁栄と経済貢献にコミットするネットワークに参加する機会を得ることが出来ました。



TOMODACHI サマー・ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム

2012年に始まった本プログラムは、岩手、宮城、福島の3県の高校生が、カリフォルニア大学バークレー校が実施する3週間集中コースの課題解決型ワークショップ「Y-PLAN(Youth-Plan, Learn, Act, Now)」に参加し、地域社会の活性化について学びます。2019年は、バークレー市近郊のリッチモンド市にて、地域を活性化するための革新的なアクションプランの策定に挑戦し、実行しました。本プログラムの経験から、リーダーシップや地域が抱える課題への取り組み方を会得した高校生は、自身の故郷である東北地方の活性化のため、アクションプランに挑戦しました。

文化交流プログラム



TOMODACHI ゴールドマン・サックス・ミュージック・アウトリーチ・プログラム

2019年は、米国の非営利団体「ヤングアメリカンズ」の39名のアーティストが岩手県および福島県の公立の小中学校を訪問し、500名以上の児童生徒と教員を対象に歌とダンスを駆使したワークショップを実施しました。参加者は世界共通語である音楽を通して共に学び、お互いの強みを尊重し、自身の潜在的な能力に出会いました。また、多様性に富み、エネルギーに満ちたヤングアメリカンズのキャストと交流することをきっかけに、自信を持ち、異なる言語や文化を学ぶ意欲を持つことへとつながりました。



TOMODACHI サントリー音楽奨学金

2014年から実施されている本奨学金プログラムは、米国有数の名門大学であるジュリアード音楽院、バークリー音楽大学、サンフランシスコ音楽院で学ぶ日本人留学生10名に奨学金を提供しました。本プログラムは、日米関係の強化に熱意を持ち、音楽を通してお互いの国や文化の価値を認め、世界に貢献し、成功していくために必要なグローバルに通用する技能とマインドセットを兼ね備えた日本人の若手ミュージシャン、アーティストの育成を目指しています。

「アメリカで学んだことを活かして、南三陸町の強みや今必要なことについて考えることが出来ました。子どもたちに自然と触れてもらうにはどうしたらよいかを考え、楽しくごみ拾いをするイベントを実行しました。プログラムを通して、視野を広げて物事を考えることができるようになったと思います。」

鎌田美波、TOMODACHI 日本アムウェイ財団 東北ミライリーダー・プログラム



「自分の心の中の思いや今まで学んできたことを、言葉にして誰かに伝えるということは、こんなにも難しく、そしてとても大切だということを実感しました」



株式会社ファミリーマートと株式会社ローソンの多大なるご支援によって設立されたTOMODACHIコンビニ基金は、東北地方の復興と次世代のリーダー育成を支えています。2019年には、「TOMODACHI女子高生キャリアメンタリングプログラム in 福島 2019」を支援し、福島県内の高校2年生女子生徒123名が4つのセッションで構成されるキャリア教育プログラムに参加しました。参加者が将来に対する視野を広げ、未来を切り開く自信をつけることが本プログラムの目的です。プログラムの各セッションで、参加者は将来の夢をしっかりと考える機会や、大学生や社会で活躍している女性から困難を乗り越えた経験談を伺う機会を得ました。その集大成として後輩たちにそれぞれの学びを発表し、プログラムは幕を閉じました。

東北の若者を力づける

「私自身が成長し変化できた貴重な機会でした。引っ込み思案で、自分の意見をなかなか伝えられない私でしたが、このプログラムの中で、プレゼンテーションの機会を与えられたことによって、自信を持てるようになりました。」

千葉悠華、TOMODACHI ダラス・仙台ヤングアンバサダーズプログラム



TOMODACHI 交流基金プログラムは、2012年4月に、トヨタ自動車株式会社、三菱商事株式会社、株式会社日立製作所の寛大なご支援により設立されました。本基金は、岩手、宮城、福島県の3県の若者に革新的な教育交流プログラムに参加する機会を提供しています。2019年には2件のプログラムが実施され、東北と米国の若者の交流が促進されました。プログラム終了後、アラムナイはそれぞれの地域のニーズや課題に取り組みながら、お互いにつながりを持っています。

TOYOTA

Mitsubishi Corporation

HITACHI
Inspire the Next

2019年 TOMODACHI 交流基金プログラム

2018-2019 TOMODACHI ランドルフ・メイコン・リサーチ交換プログラム
TOMODACHI ダラス・仙台ヤングアンバサダーズプログラム 2019

異文化で活躍する リーダーとしての能力を培う

スポンサーやサポーターと称される協賛・支援企業・個人からの寄付が、教育交流プログラムから、リーダーシップ育成プログラム、スポーツ・音楽・芸術などの文化交流プログラムまで、幅広いTOMODACHIプログラムを支えています。2019年には11件の一般基金プログラムが実施され、中学生から若手社会人までおよそ380名の参加者が、人生を変えるような経験をしました。リーダーシップおよびネットワーキングスキルの向上や強化に励む一方でまた、日本全国の参加者と全米各地の若者が文化交流を経験する機会にもなりました。

「私はこれまでホスピタリティーや観光事業に関するプロジェクトに多く携わってきました。
いつか日本に戻り、何らかの形で小都市のプロジェクトに関わり自分のアイデアを
共有したいです。」

ライカ・コロタン、TOMODACHI イノエ・スカルーズプログラム



2019 年一般基金プログラム

グローバル・クラスメート・サミット2019 | 2019 TOMODACHI CIE 日米草の根交流サミット 兵庫・姫路大会 | TOMODACHI NAJAS 草の根交流プログラム—サンアントニオ・熊本 | 2019 TOMODACHI-STEM @ Rice University Program | 第9回国大使館・慶応湘南藤沢キャンパス (SFC)・TOMODACHIアントレプレナーシップ・セミナー | TOMODACHIブリッジング・スカルーズ・プログラム 2019 | TOMODACHI 障がい当事者リーダー育成米国研修プログラム | TOMODACHI フォスターユース・リーダーシップ・プログラム | TOMODACHI インターンシップ・プログラム | TOMODACHI カケハシ イノエ・スカルーズプログラム | TOMODACHI ソーシャルアントレプレナーシップ・プログラム

関わり続けること



TOMODACHI アラムナイ・リーダーシップ・プログラムは、日米関係を担う次世代リーダーが、TOMODACHIの経験を基に、夢を実現するためのスキルや自信を得て、アラムナイ同士が影響を与え合い、より良い世界の構築に貢献できるよう支援を続けています。

TOMODACHI アラムナイ・プログラム4つの柱

クリティカル&イノベティブ・シンキング



既成概念に捉われない、時に批判的で革新的な考え方を学び、21世紀の成功と繁栄に不可欠な、優れた課題解決スキルを養います。

市民活動



TOMODACHIを通じて得たグローバルな体験を地域社会に還元し、新たな知識、スキル、価値やモチベーションを創出して地域に貢献します。

社会に出る準備



メンタリングやアラムナイ同士の交流を通して、次世代のリーダーとして必要な知識やスキルを身に付ける機会を提供し、実力を備えたグローバル人材となるよう支援します。

つながりと継続性



TOMODACHI世代の一員として、アラムナイ同士が交流する中で、さらにネットワークを拡大し、地域の一員として、そしてリーダーとして、人と人とのつながりを生かしていきます。

これらの柱に着想を得て、アラムナイ同士がつながり刺激し合えるようなイベントやプログラムを、アラムナイ自身が企画・実行しています。2019年は、アラムナイがさらにネットワークを広げていけるよう、異なる地域や年代そして産業界で活躍するアラムナイが新たな機会を得る場として、オンラインプラットフォーム「TOMODACHI アラムナイ・コネクト」を始動しました。

TOMODACHI アラムナイ・リーダーシップ・プログラムは、それぞれのプログラム終了後もアラムナイ同士がつながり高め合う機会を提供しています。2019年12月末までに、321件を超えるTOMODACHIプログラムに参加した8,600名以上のアラムナイがコミュニティを形成しています。ブルデューン財団の支援により、2019年には34件のTOMODACHI アラムナイ・プログラムが実施され、600名以上のアラムナイが参加しました。

関わり、刺激を受ける アラムナイ同士のつながり

アラムナイ・プログラムのハイライト



TOMODACHI アラムナイ・コネクト

TOMODACHI アラムナイ間のつながりとコミュニケーション強化のため、2019年5月1日、新たなオンラインプラットフォーム「TOMODACHI アラムイ・コネクト」を開始しました。世代を超えてスキルや経験を共有し、互いに刺激しあいサポートすることを可能とする、TOMODACHI アラムナイの関係者限定のオンラインプラットフォームです。



米日カウンシル・アニュアル・カンファレンス

2019年11月にロサンゼルス市で開催された米日カウンシル・アニュアル・カンファレンスにおいて、TOMODACHI アラムナイが大きく貢献をしました。4名のTOMODACHI アラムナイは、650名を超える参加者を前にした本会議で登壇し、またメンバーズデイのパネルディスカッションにて、TOMODACHIを通じた人生を変えるような経験や、これからも続くリーダーシップ習得への道程などを共有しました。



TOMODACHI アラムナイ Regional Impact for Social Empowerment (RISE) Leadership Program

アラムナイのリーダー育成を目指す、この1年間の体験型リーダーシップ・プログラムは、メンターシップを取り入れ、アラムナイ同士が繋がる機会をつくり、地域課題の発見、解決に共に取り組みます。地域リーダーと地域メンターは日本全国6地域から選抜されます。

アラムナイ・プログラムとイベント

TOMODACHI アラムナイ・プログラムは、TOMODACHI アラムナイ地域フレームワークで形成されたつながりを進展させ、革新的なワークショップやイベントを通じアラムナイが集う様々な機会を提供します。

TOMODACHI 世代グローバル・リーダーシップ・アカデミー 2019



東北地域の40名以上のアラムナイが集結する、市民活動やグローバル・リーダーシップに着目した4日間のプログラムです。高校生は参加者として、大学生はリーダーそしてスタッフの一員として参加し、東京に所在する革新的な企業、非営利団体や政府機関を訪問したほか、東北地方の将来に活力を与えていくための創造性に富んだ企画案を作成しました。

TOMODACHI 世代サミット 2019



様々な年代や地域から230名のTOMODACHI アラムナイが集結し、有意義なワークショップやディスカッションを行いました。本イベントはアラムナイで構成された委員会が中心となり、地域リーダー、登壇者やボランティアを務めるアラムナイの助けを得て、企画・運営されました。

その他の2019年 TOMODACHI アラムナイ・プログラム

在札幌米国領事館 首席領事との意見交換会 | TOMODACHI アラムナイ・インターンシップ・プログラム | TOMODACHI ふくしま香 LINK プログラム 2018-2019 | 在福岡米国領事館 首席領事とのランチレセプションにて意見交換会 | 米日カウンシル・ジャパン主催ビジネス・アドバイザリー・ボードミーティング



Q & Alumni

TOMODACHI IMPACT

発足当初から
TOMODACHIは若者の活躍を
支えてきました。

企業家精神について
学んだ若者

2,500

名以上

女性エンパワーメントプログラム
への参加者

1,400

名以上

キャリア開発を学んだ若者

5,200

名以上

日米留学の経験者

5,800

名以上



葦苅 晟矢

大分県出身

TOMODACHIプログラムの渡米研修でシリコンバレーを訪れた葦苅氏は、同じ世代の若者が自由にビジネスを行っている環境を目の当たりにし、さらに海外で挑戦するやりがいと楽しさを学び、自身も事業を立ち上げる決意をします。大学卒業後、日本とカンボジアで起業し、昆虫の食用化と養魚・家畜飼料の、昆虫生産企業の代表として、エコフレンドリーな食料生産やカンボジアの経済活性化に寄与するようなソーシャルビジネスを進めています。

TOMODACHI プログラムの中で一番忘れられないことは何ですか？

シリコンバレー訪問時に、ビジネスアイデアを英語でピッチする機会がありました。自分の考えを英語のネイティブの前で話すのは初めての経験でし、これを通じて異なる文化や言語で自分のビジネスアイデアをどうやって伝える

のかということ学びました。渡航前発表ではあまり完成度が高くなかったと思いますが、渡米してからピッチの度にプレゼンを練り直し精度を上げるよう努めました。最終日は自分でも納得のいく発表ができ、周りに伝わったという手ごたえがあり、その経験をきっかけに海外で挑戦したいと思うようになりました。

プログラム参加前と現在、どんな変化がありましたか？

それまでは国内志向が強かったのですが、ビジネス最先端のシリコンバレーを体感出来て、海外で仕事をしたいと思うようになりました。大学在学中、模擬国連に参加する機会があったので、海外にいつか行けたら行きたいと考えることもありましたが、TOMODACHIプログラムに参加し、渡米したことで、海外で事業をはじめることがグッと身近になり起業することへとつながりました。

「TOMODACHIでは、起業家精神というのは社会課題を解決する良い方法であること、さらにソーシャルビジネスの持つ影響力を学びました。」

あなたにとってリーダーシップとは？

自分の資質をこえるインパクト、そして「巻き込み力」を作ることです。



ダニエル・リード

メリーランド州出身

リード氏は、東日本大震災直後の困難な状況の下、JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)で来日し被災地のコミュニティで教員を務めていた時に、TOMODACHIイニシアチブの存在を知りました。その後自らもTOMODACHIプログラムに参加し、このときの経験が、自身のコンサルティング会社をはじめることにつながりました。

「この経験から学んだことが、私自身、会社を設立しようと最終決断をしたときの判断軸となりました。」

TOMODACHI プログラムで学んだことについて教えてください。

打ちのめされるような災害が起こったコミュニティにおいても、起業家精神を持ち合わせている起業家やリーダーたちの影響は大きく、TOMODACHIプログラムを通してそれを直に学ぶことができました。またプログラムで仲間となった日米の参加者の多くは、自身の会社や非営利団体を立ち上げており、グローバルなリーダーシップ能力を高めることや自身の仕事を通して、世界に前向きな変化をもたらすことに力強く取り組む情熱的な人々でした。

将来の夢や目標について教えてください。

全ての人々が他者とうまく付き合うことができ、お互いを尊敬し合えて、持続可能な社会に対して責任ある行動に努め、皆にとって幸福で、より質の高い暮らしができる世界で暮らすことが私の夢です。

あなたにとってリーダーシップとは？

リーダーは、ビジョンを追求するために共に働いている仲間ひとりひとりに刺激を与えなければいけません。そして目標達成するためには、効果的に資源を活用し、それぞれが持つ知識や技能を活かした結束の強いチームを作る能力が必要です。さらにリーダーは、「変革を起こす人」であり、現実として迫りくる様々な課題の解決に挑むような変革者なしには、社会の進展は起こり得ません。



菅野 采颯

福島県出身

菅野氏は高校時代に参加したTOMODACHIプログラム後、TOMODACHIアラムナイ地域フレームワークの北海道・東北地域の地域リーダーに応募し、地元である福島へ還元しようと決めました。菅野氏は、TOMODACHIによって、自分らしいリーダーシップ・スタイルを試し、責任をもって自身のアイデアを実行できるようになったと語ります。

TOMODACHIプログラムの中で一番困難だったがやりがいのあったことは？

チーム内でディスカッションをし、様々な多くの意見をまとめあげて、チームの一致した意見へと持っていくことに難しさを感じました。しかし、次第に人は色々な意見を持っていて、それらを受け入れていくことが大切なのだということを学びました。この困難な経験をしなければ学び得ることができないことでした。

「たくさんの TOMODACHI プログラムやイベントに参加した一番の理由は、アラムナイやプログラムに関わる人々と会い、そこからたくさんの学びがあるからです。」

あなたにとってTOMODACHIとは？

「可能性」です。行動を起こしたいと思ったときに必要な人となりが、ロールモデルを見つけることができるのも、TOMODACHIが「可能性の塊」だからこそだと思います。

リーダーシップを持つリーダーとは？

周りの信頼を自然と得られ、やりたいことや、やるべきことを行い、社会が求めていることを創り上げられる人をさすのだと信じています。





Q & Alumni



澤田陽希
宮城県出身

幼いころから看護師を目指していた澤田氏は、東日本大震災を経て、さらにその後参加した復興支援コンサートでのボランティアの経験をきっかけに、災害時に自分も何か手助けができる人になりたいと、災害看護の道を目指します。TOMODACHIプログラムの米国研修では、災害看護の現場を目の当たりにし、演習を通じて多くの学びを得ました。2020年には学校を卒業し、看護師として医療の現場に立つこととなります。



TOMODACHI プログラムで学んだことについて教えてください。

アメリカ研修の現場では、様々なお話を伺い多くの質問をした上で、認識がより深まっていくことを実感しました。自分の「質問力」の拙さを痛感するとともに質問するには自分でもある程度知識をつけておかねばいけない上、「質問力」を鍛える必要があると思うようになりました。今でも質問することは勇気のいることですが、プログラムに参加した時のこと、その時の仲間のことを思い出して、勇気をふりしぼって質問するようになった自分がいます。

「人種や民族、文化が違うと大切にしていることが違います。安易に行動することで他の人の価値基準を傷つけてしまう可能性があることも学びました。」

プログラム参加前と現在、どんな変化がありましたか？

プログラム参加前は、日本の災害看護を支えられる存在になりたいと思っていたのですが、米国研修中にニューヨーク大学学長から「国の防災力をあげるためには、それぞれの地域に特化した災害対策を考えていく事が大事で、それが国の災害対策のレベル向上につながる」という言葉をいただきました。その時が、まさに私のやりたいことや進んで行く道が定まった瞬間

でした。私は、生まれ育った地域に力を注ぎ、その地域へ還元できる存在にゆくゆくはなりたいと思うようになりました。

あなたにとってTOMODACHIとは？

帰って来れる場所、そして、災害看護を学びたいと思い、学べた自分の原点でもあります。



渡戸 駿介
神奈川県出身

渡戸氏は、TOMODACHIプログラムの一環で、南三陸町のバイオガス施設を訪れた際に、食品廃棄物をエネルギーに変えるシステムを見てから、フードロスへの興味関心が高まりました。その後、高校在学中よりTOMODACHIアラムナイ関東地域の地域リーダーとしてTOMODACHIの活動へ参加し、2019年にはフードロスをテーマとしたTOMODACHIアラムナイのイベントを主催しました。



TOMODACHIプログラムの中で一番忘れられないことは何ですか？

米国での研修中、通りがりの人同士が気軽に挨拶を交わす日常の当たり前のコミュニケーションを、現地で実際に体験し、とても些細な事で、衝撃を受けるとともに文化の違いを感じました。同時に今までの自分の視野の狭さを再認識したり、固定概念が覆されたりしました。日本にはこのような経験はできないと思います。

あなたにとってリーダーシップとは？

リーダーシップには様々な種類がありますが、私は、他者から信頼され率先して適切な判断・行動を起こせる存在になることだと思います。

「TOMODACHIは、新たな挑戦や発見ができる場所、そして私をチャレンジさせてくれる場所です。」

TOMODACHI プログラムに参加して学んだことは？

多角的な視点、柔軟な発想力、組織の垣根を超えた新しい出会いや交流を持つことの大切さです。さらにTOMODACHIアラムナイの地域リーダーの経験を通して、最大限に能力を発揮できるようにサポートしてくれる社会人の地域メンターとの関係の重要性です。「ハウレンソウ(報告/連絡/相談)は重要だからね」と教えていただきました。



トリステン・ノーマン
アーカンソー州出身

ノーマン氏は、日本の歴史に興味があったことから、TOMODACHIプログラムへ参加しました。その際、日本文化についてや日米関係の重要性を学び、またこのプログラムの独自性や互いに学びを得たいという若い学生たちの純粋な熱意に出会いました。ノーマン氏は、JETプログラムの英語教師助手に選ばれ日本を再訪することになり、日本の友人たちと会えること、さらに日本語や日本文化について学ぶことを楽しみにしています。

TOMODACHIプログラムで学んだことについて教えてください。

これまでに知っている言語や文化、地理、歴史の違いほど、本当は私たちの間には隔たりはないということを学びました。アメリカ人が日本人を理解すること、そして日本人がアメリカ人を理解することとの間には、分断する壁はないと思います。困難、見解の違いや言葉の違いはあれど、話を聞き、

友情を深め、意図をくみ取り、互いの国を行き来し、異なる生活を見ることで乗り越えられます。

あなたにとってTOMODACHIプログラムはどんな意味がありましたか？

いつもの自分自身の環境とは違う、異なる文化に突然出会った魔法のような出来事でした。TOMODACHIプログラムでのユニークな経験によって、世界への視座や日米の歴史の見方が全く変わりました。私たちは、日米について学びたいと思っている若者たちのために、これからも長く続く新たな伝統と礎を築けると 생각합니다。

あなたにとってリーダーシップとは？

日々の何気ない事柄や瞬間から、インスピレーションを受けとれる能力を持つことだと思います。しばしばリーダーシップとは、壮大なビジョンを宣言することだと捉え、本来目指していたことや守ろうとすることを見失います。思いやりのあるちょっとした行動や話からインスピレーションを感じる力があってはじめて、重要な価値や意味のある事を受け止めることができると 생각합니다。



「TOMODACHIプログラムを通じて築いた友情、交わした会話、体得した経験は、より良い世界と未来の礎になることを確信しています。」



TOMODACHI IMPACT



98%

のプログラム参加者は、異文化間コミュニケーションのスキルが向上したと報告しています。



96%

のプログラム参加者は、創造的思考能力が向上したと報告しています。

米日カウンシル (U.S.) および米日カウンシルージャパン



米日カウンシル(U.S.)および米日カウンシルージャパンは、在日米国大使館と協力し、官民パートナーシップであるTOMODACHIイニシアチブを管理・運営します。プログラムの開発と管理、コミュニケーションと普及活動、マーケティング、活動資金調達、寄付者との折衝などを主な活動とします。

米日カウンシル(U.S.)は、ワシントンD.C.に本部を置き、カリフォルニア、ハワイと東京にスタッフを置く501(c)(3)非営利非課税組織で、日米のあらゆる世代の人と人をつなぐ活動をする団体です。米日カウンシルージャパンは、東京で設立された公益財団法人です。米日カウンシルージャパンと米日カウンシル(U.S.)は別組織で、それぞれ独立した理事会によって運営されますが、双方が緊密に協力してTOMODACHIを運営しています。

米日カウンシルージャパン理事会

(2019年12月末日現在)

代表理事 ローヤン・ドイ
ヤマハ株式会社 経営本部 法務部
Global Legal, Ethics & Compliance Adviser

代表理事 アイリーン・ヒラノ・イノウエ
米日カウンシル 会長

副理事長 デービッド 西田

監事 片山 隆一

川原 K. ラッセル
渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 パートナー

スタン・コヤナギ
オリックス株式会社 取締役 兼 常務執行役
グローバルジェネラルカウンセル

ゲイリー・S・モリワキ
ウィンデルズ・マーク・レイン・ミッテンドルフ法律事務所 パートナー

大出 隆
学習院女子大学 国際文化交流学部 非常勤講師

ジェニファー・ロジャーズ
アシュリオンジャパン・ホールディングス合同会社
ゼネラル・カウンセル アジア

米日カウンシルージャパン評議員会

(2019年12月末日現在)

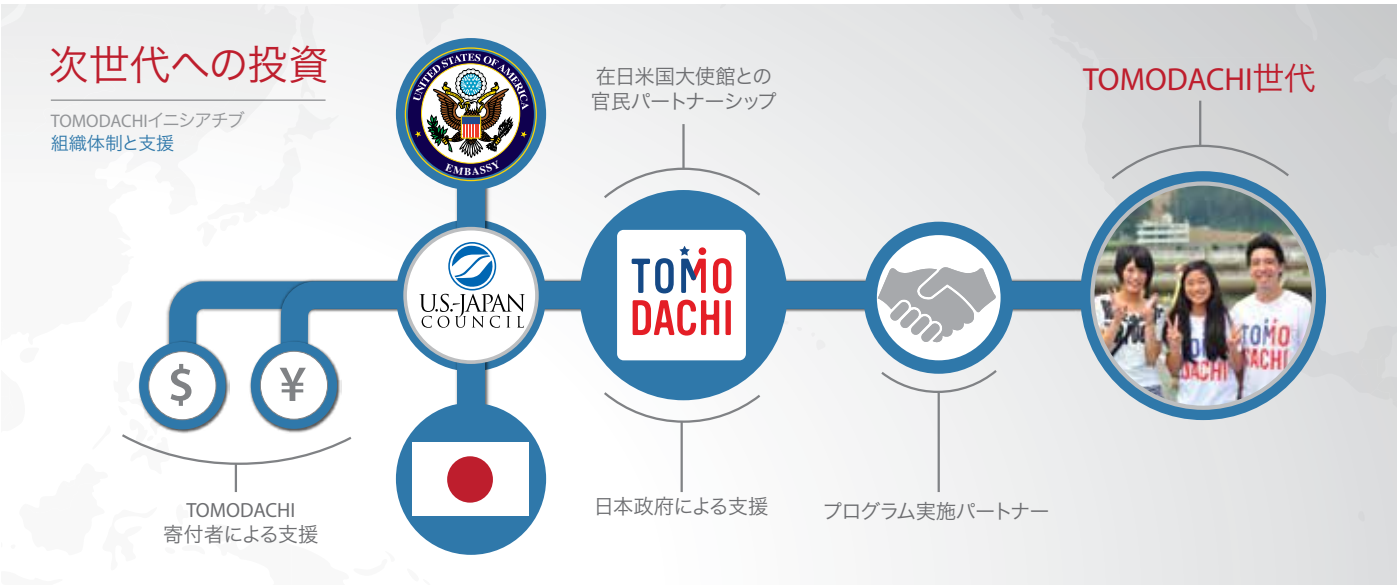
会長 キャシー 松井
ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長

藤井 ダニエル 一範
トラスト・キャピタル株式会社 代表取締役社長

ウィリアム・アイアトン
ソニー・ピクチャーズ インターナショナルプロダクションズ
日本代表

大河原 愛子
株式会社ジェーシー・コムサ 代表取締役会長

高田 ヘンリー 聖一
シンテックジャパン株式会社 代表取締役



以下の財務報告書は、TOMODACHIイニシアチブ設立以降の米日カウンシルージャパンおよび米日カウンシル(U.S.)の要約された財務報告書です。米日カウンシルージャパンの監査済み財務諸表はwww.tomodachi.org/ja、また米日カウンシル(U.S.)の監査済み財務諸表www.usjapancouncil.org/jaに掲載されています。

米日カウンシル (連結) TOMODACHI累計寄付額と支出 (各年)	2011-18	2019	2020-22 (誓約済み)	TOTAL
TOMODACHI への寄付金および誓約寄付金				
米日カウンシルージャパン	\$29,208,294	\$3,458,562	\$3,739,489	\$36,406,345
米日カウンシル (U.S.)	21,004,953	1,922,524	2,147,347	\$25,074,824
現物寄付 (U.S.およびジャパン)	4,788,501	451,110	900,000 ¹	\$6,139,611
寄付金および誓約寄付金合計	\$55,001,748	\$5,832,196	\$6,786,836	\$67,620,780
TOMODACHIに係る経費				
米日カウンシルージャパンおよびプログラム、プログラム支援の経費	\$23,541,682	\$2,356,939	\$3,365,540 ²	\$29,264,161
米日カウンシル (U.S.)およびプログラム、プログラム支援の経費	16,301,553	1,444,828	1,932,612 ²	\$19,678,993
TOMODACHIに係る経費 (プログラム、プログラム支援の経費)	\$39,843,235	\$3,801,767	\$5,298,152	\$48,943,155
米日カウンシルージャパン 管理費	\$1,672,826	\$1,224,724	\$373,949 ²	\$3,271,499
米日カウンシル (U.S.)管理費	1,385,860	413,898	214,735 ²	\$2,014,492
管理費合計	\$3,058,686	\$1,638,621	\$588,684	\$5,285,991
現物寄付 (U.S.およびジャパン)	\$4,788,501	\$451,110	\$900,000 ¹	\$6,139,611
経費合計	\$47,690,422	\$5,891,499	\$6,786,836	\$60,368,757

米日カウンシル (U.S.)	米日カウンシルージャパン	
TOMODACHI 財政状況 - 要約 (USD)	2018	2019
流動財産		
現金寄付	\$2,570,710	\$2,793,396
未収入金	1,379,057	1,162,177
その他の流動財産	-	-
無形資産 - 商標	2,335	2,335
財産合計	\$3,952,102	\$3,957,908
流動負債		
未払金	\$63,441	\$8,951
その他の流動負債	-	-
正味財産	\$3,888,661	\$3,948,956
負債および正味財産合計	\$3,952,102	\$3,957,907
収支要約	2018	2019
収入		
企業からのTOMODACHI寄付金	\$2,382,346	\$1,890,404
特定資産受取利息およびその他の利息	52,192	32,120
収入合計	\$2,434,538	1,922,524
支出		
プログラムおよびプログラム支援	\$1,310,982	\$1,444,828
管理と資産調達	381,378	413,898
プログラム経費合計	\$1,692,360	\$1,858,726
為替損益	3,863	-3,580
正味財産の変動額 ³	\$746,041	\$60,219
期首の正味財産	3,142,620	3,888,661
期末の正味財産	\$3,888,661	\$3,948,880

米日カウンシルージャパン	米日カウンシル (U.S.)	
TOMODACHI 財政状況 - 要約 (USD)	2018	2019
流動財産		
現金寄付	\$2,291,154	\$2,082,392
未収入金	-	-
その他の流動財産	14,933	4,711
固定資産 (正味)	1,906	9,881
財産合計	\$2,307,993	\$2,096,983
流動負債		
未払金	\$384,260	\$294,277
その他の流動負債	-	-
正味財産	\$1,923,733	\$1,802,707
負債および正味財産合計	\$2,307,993	\$2,096,983
収支要約	2018	2019
収入		
企業からのTOMODACHI寄付金	\$2,821,547	\$3,457,783
特定資産受取利息およびその他の利息	796	780
収入合計	\$2,822,343	\$3,458,562
支出		
プログラムおよびプログラム支援	\$3,172,333	\$2,356,939
管理と資産調達	428,126	1,224,724
プログラム経費合計	\$3,600,459	\$3,581,663
為替損益	-127,861	2,074
正味財産の変動額 ³	-905,97	-\$121,026
期首の正味財産	2,829,709	1,923,733
期末の正味財産	\$1,923,733	\$1,802,707

1. 契約期間内の現物寄付に値する額。
2. 2020 - 2022年のプログラムおよびプログラム経費管理費、資金調達とその経費管理費の見積額。
3. 純財産変動総額は、今年度の寄付額と特定期間の支出額のみを反映しています。
純財産のマイナス変動は、現金残高や寄付額と支出額のバランスがマイナスであることをしめすものではありません。
寄付の受領と支出発生の記録時期により純資産変動額総額がプラスやマイナスの変動となる場合があります。
4. 日本におけるTOMODACHIの財務は、円貨で管理され、記録用としてドル建てに換算しています。

感謝を込めて

「このプログラムは、私の人生の中で最も学んだ2週間でした。学校で東北の震災や広島についての資料等を読むことはできますが、実際に現地の人々から話を聞き、その取り組みを学ぶことは、はるかに強力な経験となりました。プログラムに参加できたことに感謝しています。」

オーウェン・シグリン、TOMODACHI・MUFG 国際交流プログラム



ファウンディング・ストラテジック・パートナー (2012年創立当初より\$1,000,000以上)



ストラテジック・パートナー (\$1,000,000以上)



協賛企業 (\$100,000 から \$1,000,000)



支援企業 \$10,000 - \$100,000

渥美坂井法律事務所・
外国法共同事業
エクソンモービル・ジャパン
グループ

早坂穀税理士事務所
株式会社ホテルオークラ東京
株式会社帝国ホテル

公益財団法人 公益法人協会
あずさ監査法人
納野国際会計事務所

オリック・ヘリントン・アンド・サトリフ
外国法事務弁護士事務所
凸版印刷株式会社
トライコー株式会社

TOMODACHI運営へのご支援

次世代リーダーを育成する TOMODACHI イニシアチブの使命に共感し、その運営と組織基盤強化のためにご支援いただいているパートナー企業の皆さまに、心より感謝申し上げます。



武田薬品工業株式会社より、TOMODACHI イニシアチブの運営・管理面の強化のためのご寄付をいただいています。組織が効率的にそのミッションを達成するためには、専任スタッフと十分なリソースが必要です。武田薬品工業株式会社からの多額の寄付金により、参加者の人生を変えるようなプログラムを開発し、TOMODACHI 世代を育成し、強固で永続的な日米関係構築に取り組むことが可能となっています。



Evolution Financial Groupより、2015年春からニューオータニガーデンコート内に、米日カウンセルージャパンとTOMODACHI イニシアチブのオフィスおよび会議スペースをご提供いただいています。機能的で利便性の高いオフィスで安定したプログラム運営が実現し、TOMODACHI イニシアチブの使命を追求できることに深く感謝します。

高まるTOMODACHIの広がり

さまざまな形で TOMODACHI の知名度を高め、幅広くご周知いただいております数多くの企業の皆さまに厚く御礼申し上げます。



TOMODACHIロゴを機体にデザインした全日空機



羽田空港内の各所に設置されたTOMODACHIの看板

実施運営パートナー

TOMODACHI ではプログラム運営にあたり、パートナーとして多くの実施団体と協力して、次世代を担う若い世代に、人生の転機となるような機会を提供しています。2019 年は、以下のパートナーからの支援の下、TOMODACHI プログラムが実施されました。

パークリー音楽大学 | Children's National Medical Center | Cultural Vistas | ニューヨーク州立ファッション工科大学 | 一般財団法人 SFC フォーラム | 特定非営利活動法人 International Foster Care Alliance (IFCA) | 公益社団法人日本国際生活体験協会 (EIL) | 一般財団法人日本国際協力センター | NPO 法人じぶん未来クラブ | 公益財団法人万次郎ホイットフィールド記念 国際草の根交流センター (CIE) | ジュリアード音楽院 | Kizuna Across Cultures | ローラシアン協会 | ルミナレーン | 全米日米協会連合 | 一般社団法人東京ニュービジネス協議会 | 認定 NPO 法人底上げ | パーソナリティ・ニュー・スクール・フォー・デザイン | ライス大学 | サンフランシスコ音楽院 | テイラー・アンダーソン記念基金 | テンプル大学 | 日米交流財団 | カリフォルニア大学バークレー校 | マサチューセッツ大学ボストン校 | ワシントンセンター | 一般社団法人 WIT(World in Tohoku)

TOMODACHI



@TOMODACHI



@USJapanTOMODACHI



@USJapanTOMODACHI



@TOMODACHI_initiative

tomodachi.org